



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 151

2022

2.25

地域のこと まだまだ知らないことばかり でも地域の中では

私自身がコミュニティ・スクールに取組み始めて6年が終わろうとしています。そんな中でコミュニティ・スクールの理解が広がらないと焦りを感じることもあります。それが、先日開かれた地域支援者連絡会議（明石市コミュニティ・生涯学習課、明石市コミュニティ創造協会、明石市地域共生社会室、明石市社会福祉協議会、学校教育課等地域に関わる組織が情報交換する場）で情報交換する中で社会福祉協議会さんが発行されている「あかしの社会福祉」や明石市連合まちづくり協議会さんが発行されている「明石のまちづくり」等の記事や、あかねカレッジのパンフレットをみると、表現は違っていても、各組織の目指すゴールは個人と社会のWell-Beingであり、各地域・組織がビジョンを持ちながら着実に取組みは進んでおり、ある意味コミュニティ・スクールの土壌が耕されているのではと感じました。例えば明石で進んでいるオレンジサポーター養成講座の事が明石市地域共生社会室さんや明石市社会福祉協議会さんから情報提供されました。その地域での取組が「あかしの社会福祉」でも取り上げられていました。私自身先日、あるまちづくり協議会さんが配信されている公式LINEで行方不明者への情報提供を呼びかけるニュースを目にしていたこともあり、コミュニティ・スクールをすすめる上でも考えていけない課題だなと思っていました。それが「あかしの社会福祉 No. 112」の中の“～認知症になっても安心して暮らせる地域へ～”というページには、「オレンジサポーター養成講座」がすでに地域の中で企画され、子どもたちの学びが広がっていることを知り、改めて地域のことがまだまだ見えていないことを実感させられるとともに、地域の力と地域のみんなで子どもを育てるコミュニティ・スクールの意義を再認識することができました。そこで、その取組の最前線である「地域総合支援センター」ってどんなところなのかをよく知らなかったので調べてみました。

“地域総合支援センターって”

誰もが安心して暮らせるやさしい社会の実現に向けて、地域の支援拠点として、また、市民の身近な相談窓口として総合的な相談対応や支援調整を関係機関・関係部署等と連携して行うことを目指して活動されているそうです。その役割を次のように4つに整理されています。

- 福祉まるごと相談・支援
- 高齢者の総合的な相談・支援
- 地域で支え合う体制づくりを支援
- 明石市在宅医療・介護連携支援窓口

あかしの社会福祉 No. 112 より

～認知症になっても安心して暮らせる地域へ～

地域総合支援センターでは、地域・企業・団体のみなさんに向け、認知症サポーター養成講座などの勉強会を開催しています。安心して暮らすことができる町を創出して、これからも学びを取り進めさせていただきます。

オレンジサポーター養成講座

うおずみ総合支援センター

ふたみ総合支援センター

あかしの社会福祉 No. 112 より

この中でも3つ目の「地域で支え合う体制づくりを支援」という役割が、コミュニティ・スクールで子どもたちが地域の中で学びを考える時に大きな力となるのではと感じました。地域総合支援センターの地域支援コーディネーターさんが学校運営協議会の委員になっている学校がありますが、こうした支援組織が同じ校区の中で活動していることを知り、地域の中で子どもを育てるためにも学校は情報交換等つながりをもつことが大切なのではと感じました。

そんな市内6か所の地域総合支援センターではセンターごとにセンター通信を発行されています。その中でふたみ総合支援センターさんが発行されている「フタじいの支え合い隊新聞」のネーミングに強く惹かれました。二見のキャラクターである「フタじい」が地域をぶらり旅しながら、地域紹介をし、地域の良さを発信するとともにつながりを広げて

いくというコンセプトが「フタじいの支え合い隊新聞」というネーミングに込められていると勝手に解釈し、納得しているところです。

この新聞を通して二見地域では様々な学びが始まっており、子どもたちにとっては勉強ではなく、様々な年代の人とかかわりながら、自分たちの地域にふれ、無意識の中で自分と地域や社会との関係・つながりを学ぶ場になっていると感じました。こうした環境が、子どもたちが生きる未来の社会で必要とされる資質・能力を身に付けていくには必要なんだと考えます。「フタじいの支え合い隊新聞」には明石のコミュニティ・スクールを考える上でのヒントがいっぱい詰まっているように感じました。

(文責:北本)

トがいっぱい詰まっているように感じました。

(文責:北本)